キーエンスの成長戦略における知的財産部門：貢献実績と今後の課題

1. はじめに

キーエンスは、ファクトリーオートメーション（FA）機器メーカーとして、1974 年の創業以来、顧客の課題を解決し、新たな価値を生み出す革新的な製品を世に送り出してきました。[1] センサー、測定器、画像処理システム、制御機器など、幅広い FA 機器を開発・製造し、世界中の製造業で高い評価を得ています。[2] キーエンスは、グローバルカンパニーとして、世界中の製造業を FA を通じて支え、着実な成長を遂げてきました。[2]

本稿では、キーエンスの成長戦略における知的財産部門の貢献実績と今後の課題について考察します。高い収益性と技術力を誇るキーエンスにとって、知的財産戦略は競争優位性を維持し、持続的な成長を遂げるための重要な要素です。

2. キーエンスの事業概要と競争優位性

キーエンスは FA 機器のリーディングカンパニーとして、センサー、測定器、画像処理システム、制御機器など、多様な製品を開発・製造し、自動車、電子機器、食品、医薬品など、幅広い業界に提供しています。[1] 主力製品である FA センサーは、工場の自動化において、ロボットの「目」や「神経」として機能し、様々な製品の製造プロセスを支えています。[2]

キーエンスの競争優位性は、顧客の問題解決と新たな価値の創造を重視するという企業理念に基づいています。[1] 具体的には、以下の点が挙げられます。

Competitive Advantage	Description
「世界初」「業界初」の製品開発への注力	常に顧客のニーズを先取りし、革新的な製品を開発することで、市場を創造し、競合との差別化を図っています。
独自の直販体制	顧客に直接販売することで、ニーズを的確に把握し、迅速な対応を実現しています。同時に、顧客との長期的な関係構築にも注力しており、優れたアフターサービスやカ

Competitive Advantage	Description
	スタマーサポートを提供することで、顧客ロイヤリティを高め、リピート購入や新製品への迅速な移行を促進しています。[3]
社員の自主性と創造性を重視する企業文化	社員一人ひとりが課題解決に積極的に取り組み、新たな価値を創造することを奨励しています。社内では、チームで成果を追求する文化が根付いており、各事業部が連携して顧客の課題解決にあたっています。[4]

これらの強みを活かし、キーエンスは高収益・高成長を維持しています。

3. キーエンスの知的財産戦略

キーエンスは、知的財産を重要な経営資源と捉え、戦略的な知的財産活動を行っています。[5] その知的財産戦略の特徴としては、以下の点が挙げられます。

- **ユーザビリティ重視**: 競合他社であるオムロンと比較して、ユーザビリティに関わる改良特許を多数出願しています。[6] 例えば、流量センサーにおいては、外部取り付けが可能になるなど、ユーザビリティに関わる機能を実現する技術が特許により権利化されています。[6] これは、キーエンスが技術スペックだけでなく、顧客にとっての使いやすさや実用性を重視した製品開発を行っていることを示しています。[6]
- **多角的な開発**: 同一の開発目的を達成するために、複数の課題や解決手段を並列的に開発し、特許出願を行っています。[6]
- **開発目的からの逆算**: 開発目的を明確に設定し、その達成に必要な技術を逆算して開発することで、効率的かつ効果的な特許取得を実現しています。[6]
- **ソフトウェア技術への注力**: 近年では、データ分析を始めとしたソフトウェア技術に関する特許出願が増加しています。[6] これは、機械学習を活用したデータ分析技術を機器のユーザビリティ向上の中心技術とする戦略を採っていると考えられます。[6] キーエンスの特許出願公開一覧は、[7] から確認できます。

4. 知的財産部門の貢献実績

キーエンスの知的財産部門は、製品開発、競争力強化、知的財産紛争への対応など、多岐にわたる分野で貢献しています。

4.1 製品開発における特許の活用

キーエンスは、製品開発において特許を積極的に活用しています。[6] 開発者一人当たりの平均特許出願数は高く、少人数でまとまった時期に複数の特許を出願していることから、基本特許よりもユーザビリティに関わる改良特許を重視していることが伺えます。[6] これは、キーエンスが、個々の開発者の創造性と発明を奨励し、それを知的財産として保護することで、競争力の源泉としていることを示唆しています。

キーエンスの革新的な製品開発の一例として、工場の機械エラーを分析する製品が挙げられます。[8] 従来、機械エラーの原因を解明するには、担当者がエラーが発生するまで機械を監視する必要がありましたが、この製品はエラー発生時のデータを自動的に記録・分析することで、原因究明の効率化を実現しました。[8]

4.2 知的財産を活用した競争力強化

キーエンスは、知的財産を活用することで、競争力を強化しています。[9] 画像検査などの「測定」技術に加えて、近年では測定データを分析する人工知能（AI）の開発にも注力しており、画像解析 AI を搭載した最新のコードリーダーを開発するなど、データビジネスを強化する戦略を展開しています。[9] このコードリーダーは、従来のコードリーダーでは読み取りが困難だった、しわや汚れのある二次元コードでも、正確に読み取ることが可能であり、製造現場における効率化に貢献しています。[9]

4.3 知的財産紛争への対応

キーエンスは、知的財産紛争にも積極的に対応しています。過去には、海外企業との間で特許侵害に関するトラブルが発生し、多額の金銭の支払いが生じたことがありました。[10] この経験を教訓に、知財の重要性を改めて認識し、開発・生産・営業など、あらゆる部門で知的財産を重視する体制を構築しました。[10]

5. 知的財産部門の課題

キーエンスの知的財産部門は、今後の事業環境の変化に対応するために、いくつかの課題を克服していく必要があります。

5.1 技術革新の加速化への対応

技術革新が加速する中、キーエンスは、AI、IoT、ビッグデータなどの最新技術に対応した知的財産戦略を構築していく必要があります。[6] 特に、ソフトウェア技術に関する特許出願が増加していることから、ソフトウェア分野における知的財産保護を強化する必要があるでしょう。[6] 最新技術は、製品の機能向上だけでなく、製造プロセスやビジネスモデルの変革にもつながる可能性を秘めており、キーエンスはこれらの技術革新を積極的に活用することで、競争優位性を維持していく必要があります。

5.2 グローバル化に伴う知的財産リスクの増大

キーエンスは、グローバルに事業を展開しており、海外での知的財産権の保護、模倣品対策、国際的な知的財産紛争への対応など、グローバル化に伴う知的財産リスクへの対応が求められます。[11] 海外市場では、法制度や商慣習の違いから、知的財産権侵害のリスクが高まる可能性があり、キーエンスは、各国・地域の法制度や市場動向を把握し、適切な対策を講じる必要があります。

5.3 人材育成と組織体制

知的財産部門の人材育成も重要な課題です。[12] AI や IoT などの最新技術に対応できる人材、グローバルな視点を持つ人材、ビジネス戦略を理解する人材など、多様な人材を育成していく必要があります。[13] また、知的財産部門の組織体制を強化し、事業戦略との連携を強化することも重要です。知的財産部門が、事業部門と緊密に連携することで、技術開発の方向性や市場ニーズを的確に把握し、より効果的な知的財産戦略を立案・実行することが可能となります。

6. 知的財産部門の今後の展望

キーエンスの知的財産部門は、今後も、競争優位性の維持・強化、持続的な成長への貢献に向けて、以下の取り組みを強化していくと考えられます。

- **最新技術への対応**: AI、IoT、ビッグデータなどの最新技術に対応した知的財産戦略を策定し、特許ポートフォリオを強化していく。
- **グローバルな知的財産リスク管理**: 海外における知的財産権の保護、模倣品対策、国際的な知的財産紛争への対応を強化する。
- **人材育成**: 最新技術、グローバルビジネス、知的財産法務などに関する専門知識を有する人材を育成する。
- **組織体制の強化**: 知的財産部門の組織体制を強化し、事業戦略との連携を強化することで、知的財産戦略の実効性を高める。

7. 結論

キーエンスは、優れた製品開発力と独自のビジネスモデルにより、高収益・高成長を続けている企業です。知的財産部門は、その成長を支える重要な役割を担っており、製品開発、競争力強化、知的財産紛争への対応など、多岐にわたる分野で貢献しています。

キーエンスの知的財産戦略は、「ユーザビリティ」を重視した製品開発、多角的な技術開発、開発目的からの逆算、そして近年ではソフトウェア技術への注力といった特徴を有しています。知的財産部門は、これらの戦略を推進することで、キーエンスの競争優位性の確立に貢献してきました。

しかし、技術革新の加速化やグローバル化の進展といった事業環境の変化に伴い、知的財産部門は、最新技術への対応、グローバルな知的財産リスク管理、人材育成、組織体制の強化といった課題にも直面しています。

キーエンスの今後の成長は、これらの課題を克服し、知的財産戦略を進化させることができるかにかかっています。知的財産部門が、事業環境の変化を的確に捉え、柔軟かつ戦略的な知的財産活動を行うことによって、キーエンスは、今後もグローバル市場における競争力を維持し、持続的な成長を遂げていくことが期待されます。

引用文献

1. 事業内容 | 会社情報 | キーエンス - KEYENCE, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://www.keyence.co.jp/company/business/
2. キーエンス | 事業内容紹介動画 - YouTube, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://www.youtube.com/watch?v=r9Qdu91Wjfw
3. 高収益の極意: キーエンスが描く未来型採用戦略と人件費増加の克服法 | Reinforz Insight, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://reinforz.co.jp/bizmedia/36443/
4. 高収益企業「キーエンス」の知られざる顔 - エンカレッジ, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://app.en-courage.com/articles/3894
5. 「知財・無形資産ガバナンス」の実践と普及に向けた取組み第４回, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://www.hrgl.jp/topics/topics-9098/
6. 知的財産の出願傾向からのキーエンスにおける商品開発戦略に関する考察 論文番号 M-18 テクノ, 1 月 6, 2025 にアクセス、 http://www.mit.eng.osaka-u.ac.jp/td2/2023M18.pdf
7. 株式会社キーエンスの特許出願公開一覧 - IP Force, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://ipforce.jp/applicant-2535/publication
8. 業界初、世界初を次々生み出すキーエンスの原動力は「製販一体」, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://academy.president.jp/articles/-/697
9. キーエンスの特許戦略 〜オムロンとの比較で見える今後の技術開発 - TechnoProducer, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://www.techno-producer.com/column/keyence-patent-strategy/
10. 経営における 知的財産戦略事例集 - 特許庁, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://www.jpo.go.jp/support/example/document/keiei_senryaku_2019/keiei_chizaisenryaku.pdf
11. 元キーエンス海外事業部部長が語る「海外事業拡大の鍵」 - 日本の人事部, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://jinjibu.jp/spcl/insightacademy/cl/detl/3698/
12. キーエンスのトップ出身者に学ぶ パフォーマンス向上に直結する人財育成の仕組みとは？〜ハイパフォーマンスチームの構築と - ユームテクノロジージャパン, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://umujapan.co.jp/event/kakusin_umu_highperformance-team/
13. 知財人材育成 - 株式会社如水, 1 月 6, 2025 にアクセス、 https://innovest.jp/ipeducation/